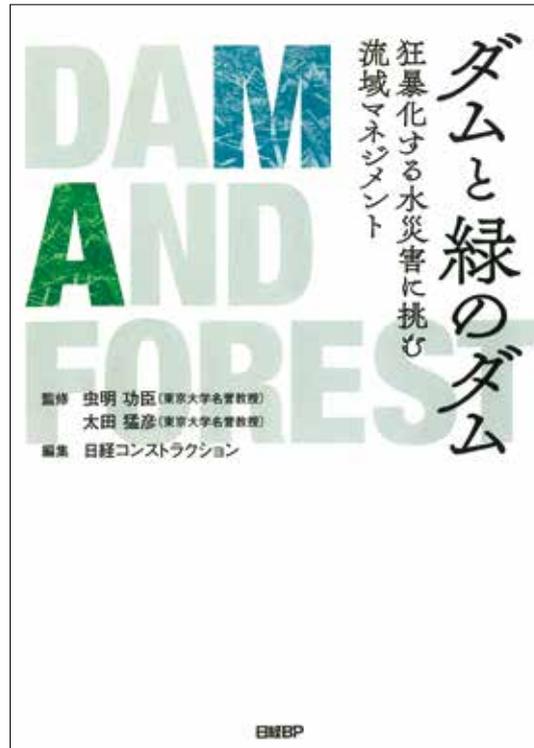


新刊
紹介

監修：虫明 功臣、太田 猛彦
 編集：日経コンストラクション
 発行：株式会社日経BP
 仕様：A5判／240ページ
 価格：2,000円(税別)

ダムと緑のダム

狂暴化する水災害に挑む流域マネジメント

2017年の九州北部豪雨、18年の西日本豪雨、19年の台風19号など、広域で同時多発的に発生し、大きな被害をもたらす水災害が毎年のように発生している。気候変動の影響なのか、従来なら異常と思われていた現象がもはやそうとは言えなくなってきた。特に被害が目立つのは、河川の上流域での集中豪雨に伴い、洪水・土砂・流木が一体となって人家を襲う「複合型水災害」である。いま、このような複合型水災害が更に頻発し激化する時代を迎えつつあるのではないか。

わが国では古くから、森林は多くの効用をもたらす貴重な存在と思われており、森林に覆われた山は柔らかな土壌に多くの水分を吸収することから「緑のダム」と呼ばれている。

河川の中下流域に比べて、上流域における災害の

実像はあまり知られていない。本書では、森林の現状や、水害・濁水を防ぐ森林の機能と限界を説明すると同時に、ダムの機能と限界についてあらためて説いている。そして、水害時に上流域で起こる現象とその原因、災害発生のメカニズムや、「緑のダム」と呼ばれる森林やダム、砂防堤防などの実態と課題を整理している。

森林とダムは連携すべきパートナーである。水は森林を流れることで浄化され、野生動物の餌を供給することを通じて、下流域の河川やダム湖の環境向上にも役立っている。森林はダムとの間で様々な相互作用を有しているのだ。山林の管理と施策、砂防・ダムの整備などについては、国や自治体などの関係機関が連携して、ハード・ソフトの両面から総合的に取り組んでいくことが必要なのではないだろうか。

発行：一般社団法人 日本建設業連合会

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 東京建設会館

TEL 03-3553-4095 FAX 03-3551-4954

URL <https://www.nikkenren.com/>

発行者：山本徳治

企画・編集：一般社団法人 日本建設業連合会 広報委員会

制作：株式会社Kプロビジョン

デザイン・印刷：株式会社スリーライト